美　唄

Bibai

白鳥は悲しからずや

巡りくる季節とともに，鳥たちが渡ってくる，数かずの嵐をのり越えたその遊の途中にひとときの休息の地を求めて，太古からくり返されてきた大いなる旅，大いなるドラマ。生きている地球を実感させる水鳥たちの乱舞。しかし私達人類は文明という名のもとに，かけがえのない地球環境を破壊しつづけてきた。この沼も，地球上にわずかに残された鳥たちの楽園なのだ。だから鳥たちの安息の日々を，そっと見守ってやりたい。日々変化する。太陽と月と星の位置，季節を，敏感に感じ取った鳥たちは旅立ちの予感のなかで，エネルギーの補給にいそしむ。

そして旅立ちのとき。一羽の鋭い声とともに羽ばたくと，それに続いて次々と大空高く飛び立つ幾万の水鳥たち。静寂が戻った沼に，いつもの住鳥たちのさえずりが渡ってくる。水鳥たちの楽園，美唄宮島沼，季節ごとに感動を与えてくれる，鳥たちのために，明日の地球のために，私達の出来ることは何であろうか。(今春は，空前の6万3千羽の飛来があった。)

(雨田　実記)